

# 国立国会図書館70年史の時代区分 -役割の二重性を手がかりに-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学司書・司書教諭課程 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 明治大学図書館情報研究会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/22490">http://hdl.handle.net/10291/22490</a>

〈研究会例会〉

# 明治大学図書館情報学研究会 第1回例会報告

## 「国立国会図書館70年史の時代区分:役割の二重性を手がかりに」

日時：2021年6月23日（水）10:50～12:30

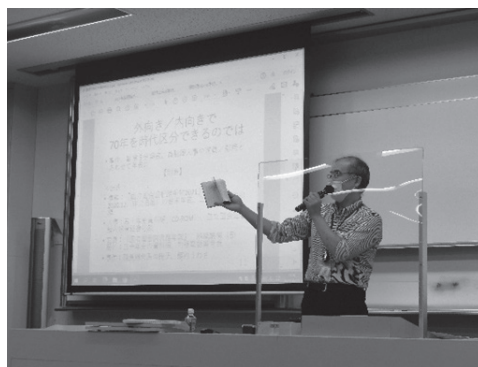
会場：和泉キャンパス 008 教室

小林 昌樹 （慶應義塾大学文学部 非常勤講師）

三浦 太郎 （明治大学文学部 教授、開会挨拶・司会）



『国会図書館七十年記念館史』について触れ、正史には記載されていない事件や事業について把握することで、70年に渡るNDLの歴史を俯瞰的に通覧することができるのではないか、と述べられました。



2021年6月23日（水）、「2021年度明治大学図書館情報学研究会第1回例会」が明治大学和泉キャンパス第一校舎にて開催されました。今回の例会では、「国立国会図書館70年史の時代区分：役割の二重性を手がかりに」というテーマのもと、慶應義塾大学非常勤講師の小林昌樹氏にご講演いただきました。参加者は本学の司書課程受講生29名で、本学司書課程・司書教諭課程の三浦太郎氏の開会挨拶ののち、小林氏の講演に移りました。

はじめに、小林氏が国立国会図書館（以下、NDL）に入省した1992年と退官した2021年では、館内の雰囲気が大きく変わっていたこと、また、その間のNDLで起きた出来事や制度の改廃について説明されました。そこから、NDLが2021年に出版した3回目の正史『デジタル時代の国立国会図書館：1998-2018：国立

講演の前半では、NDLが設置されるまでの歴史的な経緯や、制度的な特徴について説明されました。NDLはナショナル・ライブラリーの機能として、国内出版物の収集や全国書誌の作成、国内ILLや国際交換など全国的なサービスがあります。また、首都圏の「参考図書館」として図書館を開館することが業務の大半となっています。一方、国会付属の「専門図書館」としての機能もあり、NDLは国立図書館と専門図書館の二つの館種を持つ図書館であると説明されました。講演の後半ではNDLの70年間を、事件、事業および政策、首

脳陣、部局編成に基づいて、I期からVI期に分けて、事件や事業・政策がそれぞれの時代にどのような影響をもたらしていたのか触れつつ、NDLの70年史を振り返りました。

講演後の質疑応答では、国立国会図書館における司書資格の扱いや、職員の雰囲気や考え方に関する質問などが寄せられました。今

回の講演では、これまでのNDLの歴史だけでなく、館種の二重性などNDLの抱える課題についても知ることができ、国立図書館としての役割についても考える良い機会となりました。講演者・参加者の皆さま、ご協力ありがとうございました。

文責：松野 南紗恵（明治大学大学院）